ご 挨 拶

「文化人・芸能人の多才な美術展」は、文字通り、文化人・芸能人そして国会議員などが制作した絵画を中心に、彫刻・写真・書・陶芸といった様々な分野の作品から構成されるものです。これまでに歴代の内閣総理大臣をはじめ、世界的に著名な方々にもご参加をいただいてきました。

この美術展は、その年の時事問題を中心にテーマを掲げ、そのテーマにふさわしい人物を選び出し、出品交渉を行い、あわせて各部門の作品を選考し、全体を構成するという、他では類を見ない展覧会として国内外から注目されているものでもあります。平成11年からはじめたこの展覧会は、今年で24年目を迎えますが、これまでの出品者総数は1,520名、総来場者数は全国131会場で228万人を数えるまでに発展し、私が目指してきた Entertainment Art という分野が確実に育って確固たる地位を確立することができ嬉しく思っております。

今年のテーマは「顔は人生のキャンバス」Face is canvas of life としました。

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2年以上も前から誰もがマスクの着用を強いられることとなり、人間の個性を表現する最も重要な顔が隠されてしまう時代になってしまいました。しかし、その影響で私は逆に、顔を意識し、顔の持つ意味を深く考えるようになってきました。顔には人生が刻まれると言われます。顔を観ることは、その人の人生を辿ることに繋がります。如何なる生き方をしてきたのか、それが顔に表出されます。本展覧会では、さまざまな作家たちが他者の顔から如何なる歴史を読み解き、それをどう描いたのか、また、自分の顔に如何なる歴史が刻み込まれたのかを観察し、それをどう表現したのか。そして、その両者の表現こそが、作家たちの人生そのものであることをこの展覧会を通し確認していただきたいと思っています。

顔が見えない時代、この展覧会では多才な作家たちがそれぞれの人生を振り返り、かつまた先を見据え表現したさまざまな顔に出会うことができます。その顔の表現は具象であったり抽象であったり、平面であったり立体であったり。そして絵画であったり文字であったり。そうしたさまざまな顔と対峙することで、皆様、ご自身の顔も人生のキャンバスになっていることに気付いていただければ幸いです。あわせて、一日も早く、この顔の見えない時代が終わることを皆様とともに祈りたいと思います。

主催：特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会　理事長
「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会 代表
アートプロデューサー　松 岡　久美子